

# 生徒会活動が活性化するクラウド活用に関する研究

— Google Workspace for Education を通して —

2022/3

四日市市教育委員会 教育支援課

## はじめに

学習指導要領では、言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力を教科横断的に育成する旨が示されています。そのうち、情報活用能力の育成においては、必要なICT環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることの重要性が示されています。

四日市市では、本年度、児童生徒1人1台タブレット端末や大型提示装置などの校内環境を整備しました。タブレット端末等のICT機器を、教科のみならず教育活動全般で日常的に活用することで情報活用能力の育成を進めています。

また、不登校の課題に対しては、登校サポートセンターを核とした支援体制の充実を図るとともに、中学校6校に設置している校内ふれあい教室への通級やICTを活用した在宅学習など多様な教育機会の確保により社会的自立への支援を行っています。

こうした本市の現況を鑑み、本年度は、2つの課題研究に取り組みました。

1つ目は、生徒会活動にクラウドを導入することが活動の活性化につながるかを検証しました。2つ目は、校内ふれあい教室を利用する生徒に対する支援にSST（ソーシャルスキル・トレーニング）を取り入れることで対人関係に必要なスキルが高まるかを検証しました。

その成果を調査研究報告書として、ここにまとめました。本研究の成果が、学校・園の日々の教育実践に活用されることを期待します。

末尾になりましたが、本課の研究調査を進めるにあたって、御指導・御助言いただいた国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官の山森 光陽様をはじめ、研究協力員並びに調査・実践面で御協力いただきました学校等の関係者の皆様に心から感謝の意を表します。

令和4年3月

四日市市教育委員会教育支援課  
参事兼課長 稲毛 弥生

— 目 次 —

1 問題	1
2 目的	5
3 方法	5
4 結果	11
5 考察	22
[引用文献]	26
[資料]	27

## 生徒会活動が活性化するクラウド活用に関する研究 －Google Workspace for Education を通して－

### 1 問題

#### 1.1 生徒会活動

##### 1.1.1 生徒会活動の位置づけと目標

生徒会活動は、特別活動の一領域である。特別活動は、教育課程上に位置づけられた教育活動の一領域であり、「生徒会活動」「学級活動」「学校行事」によって構成されている。

平成 29 年度告示の中学校学習指導要領は、「生徒会活動は、全校の生徒をもって組織する生徒会において、学校における自分たちの生活の充実・発展や学校生活の改善・向上を目指すために、生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動である。生徒会活動は学年、学級を越えて全ての生徒から構成される集団での活動であり、異年齢の生徒同士で協力したり、よりよく交流したり、協働して目標の実現をしたりしようとする活動である」とし、その目標として「異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第 1 の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す」と示している。「第 1 の目標」とは、特別活動の目標を指すものであり、以下の通りである。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

##### 1.1.2 生徒会活動の現状

生徒会活動は、全校の生徒をもって組織する生徒会において、学校における自分たちの生活の充実・発展や学校生活の改善・向上を目指すために、生徒の立場から自発的、自主的に行われる活動である。しかし、現状では、生徒の意識の中で生徒会の一員であるという自覚が低く、生徒会活動が一部の生徒の取り組みに留まっていることが多い。

盛満（2013）は、「生徒会は全校の生徒をもって組織されているものであるが、ある特定の代表者グループを指す言葉として誤解されている」と述べ、その要因の 1 つとして「自分自身が生徒会の一員である」と感じることでできる活動を経験していない場合が多いことを指摘している。

また、明石・小川（1997）は、「生徒会役員は教師から与えられた仕事をこなすだけであり、生徒は教師の小間使いとなっている。下部の委員会組織も、教師から与えられた日常的な仕事をこなすだけであり、生徒の主体性が活きる場ではない。生徒総会が開かれる学校も、委員会の活動計画が例年通り踏襲され、提案され可決されるだけの形式的なものとなっている。中学校においては、生徒会活動は、生徒が自治を学んでいくうえでの有効な活動が行われていないのが現状である」と述べている。

現状の生徒会活動では、生徒一人一人が活躍できる場が保障されておらず、役員に選出された一部の生徒が、前年度の活動をそのまま形式的に行う受動的なものとなっている学校が少なくない。

### 1.1.3 生徒会活動の活性化に関する先行研究

小澤・上岡（2019）は、自身の勤務する高校において、それまで教員主導で行われてきた生徒会活動の状況を改善するために、生徒会アンケートを実施し、Table 1 に示した6つの改善策を見いだした。そして生徒自身が主体的に生徒会活動に関わるための取り組みを考え、その結果生徒にどのような力がついたか、自己評価と他者評価を通して検証した。

**Table 1：生徒会活動の状況を改善するための策（小澤・上岡，2019）**

改善策	概要
生徒会活動の習慣化（固定化）	生徒会が固定日に集まるという習慣がなかったため、まず集まる日を固定する。
生徒主体で話し合う内容を作成し、議題を全員で共有する。	生徒が輪番で話し合いの期日までにレジュメを作成し、話し合う内容をそれぞれが共有する。
委員会活動の活性化	生徒会がほかの委員会と連携、協力を行うことができる組織であると自覚させると同時に、各委員会自体がより自主的に動くことができるような働きかけを行う。
生徒会が主体として発信する機会を増やす。	生徒の考えや行動をお互いに話し合うと同時に、学校全体へ発信する機会を作る。
地域の実情、世界の実情などを理解し、ボランティア活動への門戸を広げる。	以前から地域貢献として、地域清掃活動への参加や募金活動への協力などを行ってきたが、正解のない問いに対して自分たちがどう行動するかを考える契機としてボランティア活動を推奨する。
学校をよくするために取り組めることを考える。	アンケート等を活用し、生徒会として学校のためにどのようなことをして、どうすれば学校をより良い環境にすることができるかを考え、実行する。

取り組み後、評価アンケートを実施した結果、「主体的に意見を発信する力」「自主的に率先して行動する力」「組織として動き、集団としてより良い環境を作る力」が育成されると分析した。

中野（2014）は、中学校において生徒が主体的に生徒会活動を行うためには、成功体験を積み重ね

させ「自己肯定感」や「自己有用感」をもたせることが有効だとし、Table 2 に示した3つの手立てを考えた。

**Table 2 : 主体的に生徒会活動を行うための手立て (中野, 2014)**

手立て	概要
各委員会の時間（活動の反省，他委員会への意見・要望，活動の企画）の確保・充実	定例の月1回の専門委員会の時間以外に「生徒会の日」を設けた。
代議員会の内容改善（評価内容の共有，改善の方策，新たな活動内容の議論）	委員会の反省の報告のみで終わっていた代議員会の質的な向上を図った。
生徒会主催の地域交流活動の企画・運営	学校主体で呼び掛け参加していた地域行事を，生徒会主体で呼び掛け進めるというスタイルに変更した。

この手立てを2年間実践したところ、「委員会の活動を改善する方策を考えることができるようになった」「代議員会が、建設的な意見を出し合い、議論できる場になり、様々な活動を考え、提案することができるようになった」「積極的に地域へ貢献したいという気持ちが高まった」などの効果が認められたと報告している。

Table 1 で示した「生徒会活動の状況を改善するための策」の多くは、次節に挙げるクラウドを活用することで、より活性化すると考える。さらに、Table 2 で示した「主体的に生徒会活動を行うための手立て」における「代議員会の内容改善」についても、十分な効果が期待できる。よって、生徒にとって生徒会活動がより身近に感じられるようになり、生徒の活動への達成感が増したり、学校への帰属意識・他者との関係性が向上したりすると考える。

## 1.2 クラウド

### 1.2.1 クラウドストレージ

クラウドストレージとは、ファイルデータを格納するためにインターネット上に設置されたスペースのことである。ユーザーはインターネットを介してクラウドストレージにアクセスし、ファイルデータを保存・編集することができる。

クラウドストレージでは、自動的にファイルデータの更新や同期をさせることができるので、ユーザーは常に最新のファイルデータにアクセスすることができる。また、複数の情報端末から1つのファイルデータへ同時にアクセスし、共有・閲覧・編集を行うことが可能である。

### 1.2.2 Google Workspace for Education

Google Workspace for Education とは、教育機関がクラウドを活用し生徒の学習を支援できるソフトウェア群のことであり、Table 3 で示したような様々なソフトウェアを利用することができる。

**Table 3 : Google Workspace for Education で利用できるソフトウェアの例**

ソフトウェア	概要
ドライブ	あらゆるファイルデータが格納・共有できるクラウドストレージ。Google のソフトウェア以外で作成したファイルデータもアップロードして共有することが可能。
Classroom	インターネット上に「クラス」という集団を作成できるソフトウェア。資料の提示や課題の出題・回収などが可能。また、クラスに所属する教員・生徒によるファイルデータの共有や、掲示板機能を用いた双方向のやりとりも可能。
ドキュメント	Microsoft の Word 相当。Word で作成したファイルデータをドライブにアップロードしてドキュメントのデータに変換したり、Word 形式でダウンロードしたりすることが可能。
スプレッドシート	Microsoft の Excel 相当。Excel で作成したファイルデータをドライブにアップロードしてスプレッドシートのデータに変換したり、Excel 形式でダウンロードしたりすることが可能。
スライド	Microsoft の PowerPoint 相当。PowerPoint で作成したファイルデータをドライブにアップロードしてスライドのデータに変換したり、PowerPoint 形式でダウンロードしたりすることが可能。
フォーム	アンケートフォーム。回答データを瞬時に集約し、グラフ化する。また、回答データを自動でスプレッドシートにまとめることも可能。

### 1.2.3 クラウドを活用した実践に関する先行研究

金指(2017)は、1人1台端末の環境を整備し、高校3年生国語科において Google フォームや Google スプレッドシートを活用し、生徒間のコミュニケーションの活性化について検証を行った。Google フォームを活用して行った「類義語・対義語テスト」では、採点結果や平均点をその場で共有することができ、生徒に自分の語彙力のレベルを把握させて今後の学習の動機づけにした。Google スプレッドシートを活用して「赤い繭」の主題をまとめる活動では、書き込んだ意見が瞬時に共有され、その意見をもとにクラス全体で協働して課題を進めることができた。これにより、「授業内にほぼ全員の意見が集約され、普段はあまり発表することが得意ではない生徒の意見も共有できた」「生徒はより様々な考え方を知り、作品を読み深めることができた」としている。クラウドを活用することで、多くの生徒の思考の過程が可視化され、双方向のやりとりがよりスムーズになり、コミュニケーションが活性化したと報告している。

植村・高橋・秋元(2014, 2015)は、中学校2年生・3年生総合的な学習の時間の「地域研究」の活動に Microsoft Office 365 Education を導入した。地域研究とは、特定の地域の産業、文化、風土、そしてそれらの抱える問題と展望について、講義受講、文献研究を行い、テーマによって構成された班ごとのフィールドワークを経て、まとめとして報告書作成と口頭発表会を実施するものである。クラ

ウドを利用したところ、「場所・時間を選ばない作業が可能となった」「複数メンバーが同時に編集出来た」「報告書作成が比較的短期間で行えるようになった」という成果を明らかにしている。さらに実際の報告書作成作業だけでなく、質問票の共同編集や計画書の管理などが組織的に行えるようになり、準備活動も円滑化したことも報告している。

金指（2017）と植村・高橋・秋元（2014, 2015）の先行研究から、クラウドを活用することにより、意見交換や情報・活動の共有が容易になり、協働作業が活性化されることが伺える。また、諸活動に対する生徒の参加意識も高まることで、活動に携わる意欲が向上すると考えられる。

### 1.3 問題の整理

生徒会活動は本来生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動である。しかし、現状では生徒の意識や自覚は低く、生徒会活動は一部の生徒の取り組みに留まっていることが少なくない。生徒会活動を活性化させるためには、「より多くの生徒が活動に携わっていると自覚できること」「情報や活動を誰でも容易に共有できること」「生徒が主体的に意見を発信する場が用意されていること」などが有効であると先行研究から明らかになっている。

また、授業を中心とした教育活動にクラウドを導入すると、データの管理が一元化され、生徒間・教員生徒間での共有・協働作業が円滑化するだけでなく、生徒の活動に対する自主性・積極性が高まることも確認されている。これらのことから、クラウドの特性を生徒会活動に取り入れることにより、生徒の自治意識が高まり、生徒会活動が活性化すると考える。

## 2 目的

本研究の目的は、生徒会活動にクラウドを導入することが活動の活性化につながるかを検討するものである。そのために、生徒1人1台端末と Google Workspace for Education を利用できる環境を整備する介入を行う。そして介入の前後で意識調査を行い、その効果を明らかにする。また、生徒会活動に Google Workspace for Education を導入しない学校を統制群として設定し、比較検証も行う。

## 3 方法

### 3.1 調査対象

四日市市内の各学年1学級である同規模中学校2校を対象とし、令和3年6月から11月にかけて調査を行った。生徒会活動の指導及び記録は研究協力員が行い、活動記録のまとめと意識調査等の分析は研修員が行った。

### 3.2 介入群及び統制群

生徒会活動において、Google Workspace for Education を導入する学校を介入群とし、Google Workspace for Education を導入せず従来の活動を行う学校を統制群とした。



### 3.3 使用端末と個人アカウント

本市では、2021年3月末に市内すべての市立小中学校において、児童生徒に1人1台端末の環境を整備した。また、Googleの個人アカウントの割当ても完了している。使用端末は富士通製タブレット端末（ARROWS Tab Q5010）で、搭載されているOS（Operating System）はWindows 10である。本研究においてもこの端末とアカウントを使用した。

### 3.4 介入群と統制群への事前指導

介入群には、研究協力員を通してTable 3で示したGoogle Workspace for Educationの各ソフトウェアの概要と操作方法のみを指導した。教員から与えられた受動的な活動となってしまうことを避けるため、具体的な活用方法は指導せず生徒たちの自主性に委ねた。そうすることで、クラウド活用が生徒たちにとって、より汎用性の高いものになることを期待した。生徒たちが各ソフトウェアをどう活用したかについては、研究協力員が随時記録することとした。また、Google Classroomで各学級・専門委員会などの「クラス」を作成し、全生徒をそれぞれが所属する学級や専門委員会のクラスのメンバーとして登録した（Figure 1参照）。クラスの中では、「ストリーム<sup>1</sup>」を利用し、教員と生徒及び生徒同士でのコミュニケーションやファイルデータのやりとりをクラウド上で円滑にできるようにした。

統制群は、Google Workspace for Educationを活用せず、従来通りの生徒会活動を行うこととした。



Figure 1 : 実際の Google Classroom の画面

<sup>1</sup> ストリームとは、クラス内の掲示板のような役割を果たす場所を示す。テキストだけでなく画像や動画、ウェブサイトの URL のリンクなど、様々な情報を共有することができる。

### 3.5 事前・事後調査

#### 3.5.1 事前・事後調査におけるねらい

本研究は、生徒会活動にクラウドを導入することが活動の活性化につながるかを検討するものである。本研究における「活性化」とは、「生徒の学校への帰属意識や他者との関係性といった学校適応感が向上すること」と定義する。そのため、介入群・統制群ともに、事前・事後の調査で生徒の意識変容を分析することとした。(Figure 2 参照)

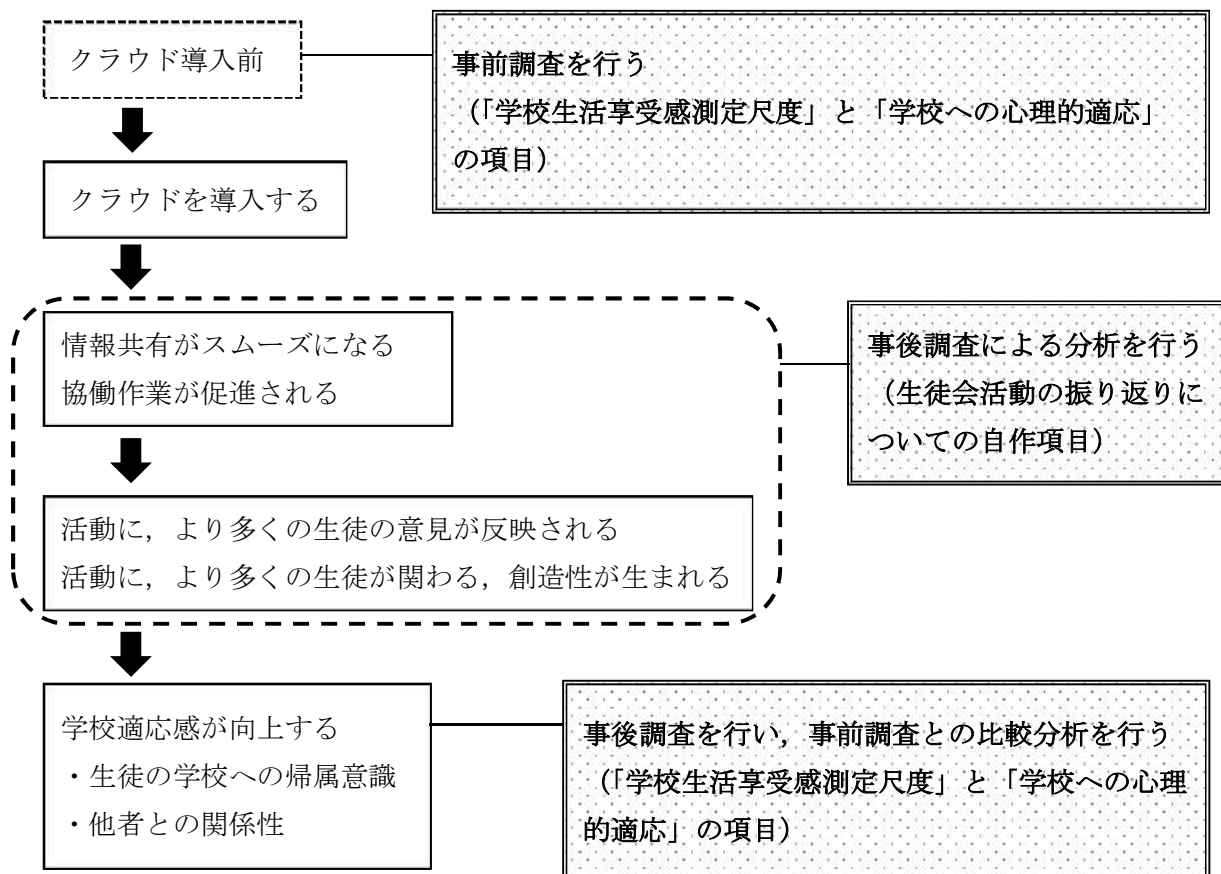


Figure 2 : 事前・事後調査の枠組み

#### 3.5.2 「学校生活享受感測定尺度」と「学校への心理的適応」

事前・事後調査では、古市・玉木 (1994) の「学校生活享受感測定尺度 (10 項目)」と岡田 (2012) の「学校への心理的適応 (12 項目)」を合わせた 22 項目を用いた。学校生活享受感測定尺度 (10 項目) の回答は「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「ぜんぜんあてはまらない」の 5 件法、学校への心理的適応 (12 項目) の回答は「とてもそう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「ぜんぜんそう思わない」の 4 件法で求めた。それぞれの項目を Table 4 と Table 5 に示す。これらの 22 項目に加え、「生徒会活動について思っていることや感じていること」について自由記述形式での回答も求めた。すべての調査は、介入群と統制群において同時期に実施し、それぞれの結果を比較分析した。

**Table 4 : 学校生活享受感測定尺度の 10 項目 (古市・玉木 1994)**

- 
- ・わたしは学校に行くのが好きだ
  - ・学校は楽しくて、1 日があっという間に過ぎてしまう
  - ・少しぐらい体の調子が悪くても学校へ行きたい
  - ・学校では楽しいことがたくさんある
  - ・学校が嫌で、授業が終わったらすぐに家に帰りたい
  - ・学校がなければ毎日つまらないと思う
  - ・日曜の夜、明日から学校かと思うと気分が重くなる
  - ・いつまでもこの学校にいられたらよいのと思う
  - ・学校では嫌なことばかりある
  - ・わたしはこの学校が好きだ
- 

**Table 5 : 学校への心理的適応の 12 項目 (岡田 2012)**

<因子 I : 欲求充足>

- ・学校では自分の気持ちを素直に出せていると思う
- ・学校ではあまり気を使わずにすごせていると思う
- ・学校では自分の言いたいことを言えていると思う
- ・学校では自分のやりたいことができていると思う
- ・学校の中ではリラックスできていると思う
- ・学校では自分の望んだ関係をつくれていると思う

<因子 II : 要請対処>

- ・学校生活の中で求められている事はできていると思う
  - ・学校の中で周囲から認められるような事をできていると思う
  - ・学校の中ではまわりの期待にこたえられていると思う
  - ・学校で言われたことはちゃんとできていると思う
  - ・学校ではまわりに気をくばることができていると思う
  - ・学校では自分をまわりにあわせる事ができていると思う
-

### 3.5.3 生徒会活動についての振り返り調査

事後調査では、生徒会活動についての振り返り調査も実施した。この調査は、本年度の生徒会活動が生徒たちにとって、より満足度の高いものになっていたかを検証するために行った。そのため、「学校生活享受感測定尺度」と「学校への心理的適応」とは異なり、生徒会活動のみに限定した7項目を研修員が独自に作成した。項目については、クラウドの活用の有無に関わらず介入群と統制群の両群が回答できるものとなるよう、研修員の所属する本市教育委員会教育支援課内で検討を重ね、決定した。回答は「とてもそう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「ぜんぜんそう思わない」の4件法で求めた。項目をTable 6に示す。

**Table 6 : 生徒会活動についての振り返り調査の7項目**

- 
- ・私は生徒会活動（専門委員会活動）や学級活動（係活動）に積極的に参加している
  - ・もっと生徒会活動（専門委員会活動）をする時間が欲しい
  - ・生徒会活動（専門委員会活動）は、意見を出しやすい環境になっている
  - ・生徒会活動（専門委員会活動）で、自分の意見が採用されたことがある
  - ・生徒会活動（専門委員会活動）は、学校をより良くすることにつながっていると思う
  - ・【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、生徒会（専門委員会）がどんな活動をしているのかよくわかる
  - ・【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、新しい活動が増えたと思う
-

### 3.6 研究計画

研究計画は Table 7 の通りである。

Table 7 : 研究計画

月	本研究に関する計画	実施する内容・協力校との連携
4	課題研究打ち合わせ会 第 1 回課題研究会議	
5		・研究協力校への依頼
6	第 2 回課題研究会議 第 3 回課題研究会議	・研究協力員との打ち合わせ ・介入群の生徒会活動参観 ・研究協力員による生徒への操作方法指導
7		・研究協力員との打ち合わせ ・介入群の生徒会活動参観 ・第 1 回調査実施 (学校生活に関するアンケート)
8		・研究協力員との打ち合わせ
9	第 4 回課題研究会議	・研究協力員との打ち合わせ ・介入群の生徒会活動参観
10		・研究協力員との打ち合わせ ・介入群の生徒会活動参観
11	第 5 回課題研究会議	・研究協力員との打ち合わせ ・第 2 回調査実施 (学校生活に関するアンケート) (生徒会活動についての振り返り)
12	第 6 回課題研究会議	・研究協力員への聴き取り
1		
2	第 7 回課題研究会議	
3	第 8 回課題研究会議	

## 4 結果

### 4.1 介入群で行われたクラウドを活用した主な生徒会活動

#### 4.1.1 介入群で行われたクラウドを活用した主な生徒会活動の流れ

介入群で行われたクラウドを活用した主な生徒会活動の流れは Table 8 の通りである。

Table 8 : 介入群で行われたクラウドを活用した主な生徒会活動の流れ

月	クラウドを活用した生徒会活動
6	・ 専門委員会 ・ 生徒議会 ・ (市内中規模校生徒会役員との交流)
7	・ 専門委員会 ・ 生徒議会 ・ 図書委員会による「マイブック」 ・ 体育祭アンケート ・ 体育祭スローガン作成 ・ 体育祭縦割りチーム会議
8	・ 体育祭スローガン作成
9	・ (臨時生徒会役員会議)
10	・ 専門委員会 ・ 生徒議会 ・ 後期生徒会役員選挙
11	・ 専門委員会 ・ 生徒議会

注) (市内中規模校生徒会役員との交流) (臨時生徒会役員会議) は、Web 会議システム (Zoom) を活用した生徒会活動

#### 4.1.2 専門委員会・生徒議会での資料共有

各専門委員会や生徒議会のクラスを作成し、資料の共有をファイルデータで行っていた。毎月定例の各専門委員会では、Google ドキュメントで事項書を作成し、会議に参加した生徒たちが協働して事項書に会議の内容を書き込むことで会議録をまとめていた。完成した会議録を生徒議会のクラスのストリームで共有することで、専門委員会での決定事項などを生徒議会へ円滑に報告することができた (Figure 3 参照)。



Figure 3 : 生徒議会の組織図とストリームの画面

#### 4.1.3 図書委員会の取り組み

図書委員会では毎年、全生徒がそれぞれ好きな本を選ぶ「マイブック」の取り組みを行っている。介入群ではこれまで、生徒一人一人に付箋を配付し、図書室に並べられた本の中から好きな本に貼りつけることで投票する形をとっていた。しかし、今年度はクラウドを導入し、Figure 4 のようにあらかじめ本に番号を割り振り、Google フォームで投票する形にした。そうすることで、図書委員会が付箋の枚数を手作業で集計する必要がなくなった。集計はタイムリーに行われ、手作業によるミスもなくなり、より正確なものとなった。また、Google フォームを全生徒が所属するクラスのストリームに投稿することで、配付も円滑に行われた。



Figure 4 : 生徒が Google フォームで投票する様子

#### 4.1.4 体育祭の取り組み

夏季休業前に生徒会役員は体育祭で掲示するスローガンの作成に取りかかった。その際、スローガンの方向性を探るべく、Figure 5 のように生徒会役員が全生徒を対象に Google フォームでアンケートを作成した。このアンケートは、体育祭を通して得られるキャリア教育で育成すべき力である4つの「基礎的・汎用的能力<sup>2</sup>」とは何かを考えるものであった。これまで一部の生徒会役員のみで考えていたスローガンであるが、Google フォームを活用し、周りの意見を取り入れ、より多くの生徒に支持されるスローガンを作成したいという生徒会役員の気持ちが具現化された例年のない新しい取り組みとなった。



Figure 5 : 生徒が自作した体育祭アンケート

また、イラストが得意な生徒が家庭でマスコットキャラクターを作成し、ストリーム上で共有する活動も見られた (Figure 6 参照)。その後、Google スライドでスローガンを協働で作成した。クラウド上での協働作業は、互いの作業や進行状況が可視化されるので、生徒の活動意欲の向上につながった。さらに、これまでは生徒会役員が個々の作業で1枚の模造紙などに手書きで作成していたが、今回はクラウド上で協働作業ができたため、時間と労力が大きく削減された。この作業は、家庭にタブレットを持ち帰ることにより、夏季休業中もクラウド上で継続して行われた。また、これまでスローガンのデザインは1種類にとどまっていたが、各々の生徒たちが隙間時間をうまく活用することで、複数のパターンでデザインできた (Figure 7 参照)。それぞれデザインされたスローガンは拡大印刷し、校内のさまざまな場所に掲示して体育祭への気持ちを盛り上げた。

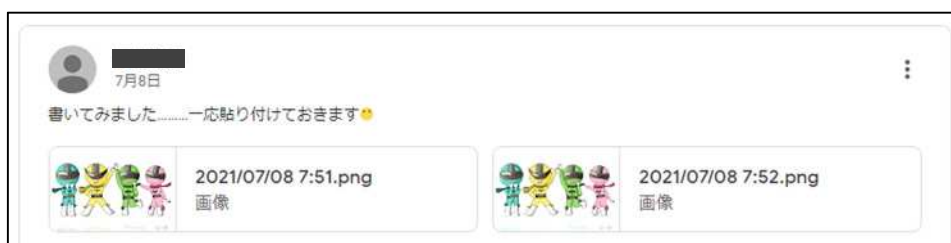


Figure 6 : 生徒がイラストを作成し、ストリームで共有する様子

<sup>2</sup> 4つの「基礎的・汎用的能力」とは、「人間関係形成・社会形成能力 (つながる力)」「自己理解・自己管理能力 (みつめる力)」「課題対応能力 (うごく・いかす力)」「キャリアプランニング能力 (めざす力)」のことである。





Figure 7 : 生徒が協働で作成した体育祭スローガンの案

また、介入群の体育祭では、各学年を赤・青・黄の3つのチームに分ける学年縦割りの競技が行われている。例年、3年生が中心となり競技に向けた準備を行っている。具体的には、出場種目、走順、選手変更の確認や、チームスローガンの決定などである。今回はその準備に Google Classroom を活用したいと生徒から要望が挙がった。それぞれのチームのクラスでは、リーダーが中心となり、チーム会議の決定事項や連絡などをストリームで共有することができた (Figure 8 参照)。クラスのメンバーには1・2年生も含まれているので、登録選手の修正や、競技に向けての作戦会議など、学年を超えて双方向のやりとりが行われていた。



Figure 8 : 各クラスのストリーム画面の一部

#### 4.1.5 生徒会役員選挙の取り組み

生徒会役員選挙にも Google フォームが活用された。今年度は、新型コロナウイルス感染症の予防として、立会演説会を Web 会議システム (Zoom) で実施した (Figure 9 参照)。各立候補者が別室で演説を行い、投票する生徒たちは自分の教室で参加した。投票は演説後、Google Classroom で配付されたフォームで行うという流れであった (Figure 10 参照)。

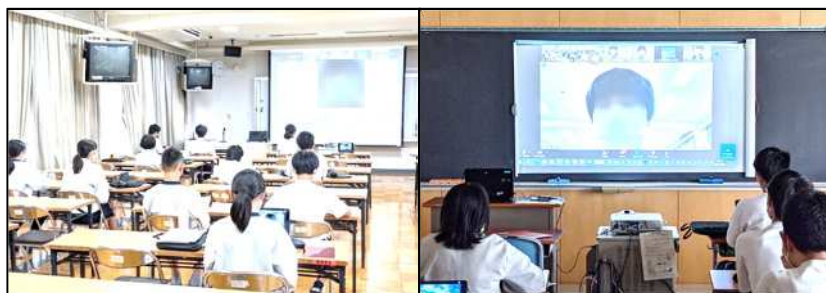


Figure 9 : Zoom での立会演説会の様子

Figure 10 : 実際の投票フォーム

### 4.2 統制群で行われた主な生徒会活動

#### 4.2.1 統制群で行われた主な生徒会活動の流れ

統制群で行われた主な生徒会活動の流れは Table 9 の通りである。

Table 9 : 統制群で行われた主な生徒会活動の流れ

月	生徒会活動
6	・室長会 ・生活委員会による「校則〇×クイズ」
7	・室長会 ・保健委員会による健康集会 ・本部役員会 (体育祭の取り組み)
8	・本部役員会 (体育祭の取り組み)
9	・本部役員会 (文化祭の取り組み)
10	・専門委員会 ・生徒議会 ・生活委員会による「校則〇×クイズ」 ・後期生徒会役員選挙 ・文化委員会による「読書量コンクール」
11	・室長会

#### 4.2.2 室長会・専門委員会・生徒議会

室長会や各専門委員会では、紙媒体で事項書や資料を作成した。会議録は手書きでまとめ、その会議録をもとに室長会や専門委員会での決定事項などを生徒議会へ報告した（Figure 11 参照）。

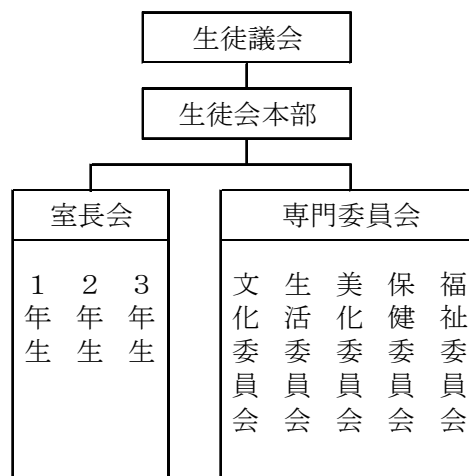


Figure 11 : 生徒議会の組織図

#### 4.2.3 各専門委員会の取り組み

保健委員会は、養護教諭と委員会主導のもと全校での健康集会を行った。事前に生活習慣や1日のスマートフォン使用時間など健康に関するアンケートを全校生徒対象に実施し、その結果の報告などがされた。アンケートは紙媒体で作成し、集計は手作業で行った。

生活委員会は、全校で「校則〇×クイズ」を行った。体育館で校則に関するクイズを出題し、全校生徒が〇か×をジェスチャーで表現し答えるという形で行われた。この校則〇×クイズは、6月と10月で2回開催された。

文化委員会は、全校生徒を対象に「読書量コンクール」を行った。指定期間中に図書室で最も多く本を借りた生徒にオリジナル缶バッジを贈呈するというものであった。生徒たちが借りた本の冊数の集計は、図書室の本貸し出し用端末の記録をもとに行われた。

#### 4.2.4 体育祭・文化祭の取り組み

夏季休業前に生徒会役員は体育祭・文化祭で掲示するスローガンの作成に取りかかった。生徒会役員が1枚の模造紙に手描きで作成した。1学期中に作業が完了しなかったため、夏季休業中も生徒会役員が学校に集合し、作業が行われた。また、体育祭・文化祭を盛り上げるため、生徒会役員がそれぞれの開会式で披露するオープニングイベントの企画もした。

#### 4.2.5 生徒会役員選挙の取り組み

生徒会役員選挙は、例年通り体育館で立会演説会が行われた。全校集会の形で、各立候補者が演説を行い、その後それぞれの教室で投票用紙を用いて投票が行われた。放課後、選挙管理委員会が開票し、手集計で作業が行われた。

### 4.3 事前・事後調査，生徒会活動についての振り返り調査の結果

全校生徒を対象に調査を行った。事前・事後調査，生徒会活動についての振り返り調査のすべてに回答した生徒は，介入群がおおよそ 90%，統制群がおおよそ 95%であった。以後，事前・事後調査，生徒会活動についての振り返り調査のすべてに回答した生徒について分析を行う。

#### 4.3.1 学校生活享受感測定尺度における評定平均値の変化と効果量

Table 10, Figure 12 は，学校生活享受感測定尺度についての調査結果である。

Figure 12 は，事前・事後調査の評定平均値をグラフ化したものである。介入群は事前と比較して事後の評定平均値が 0.20 上昇した。統制群は事前と比較して事後の評定平均値が 0.03 上昇した。

また，Table 10 で示したように，事前・事後の平均値差の効果量  $d$  を求めた。介入群では事前と比較して事後の平均値が 0.44 標準偏差分高かった。統制群では事前と比較して事後の平均値が 0.05 標準偏差分高かった。

Table 10 : 学校生活享受感測定尺度の評定平均値，標準偏差，効果量

	介入群 $n=75$			統制群 $n=73$		
	事前	事後	効果量 $d$	事前	事後	効果量 $d$
評定平均値	3.32	3.52	0.44	3.37	3.40	0.05
標準偏差	0.49	0.40		0.54	0.48	

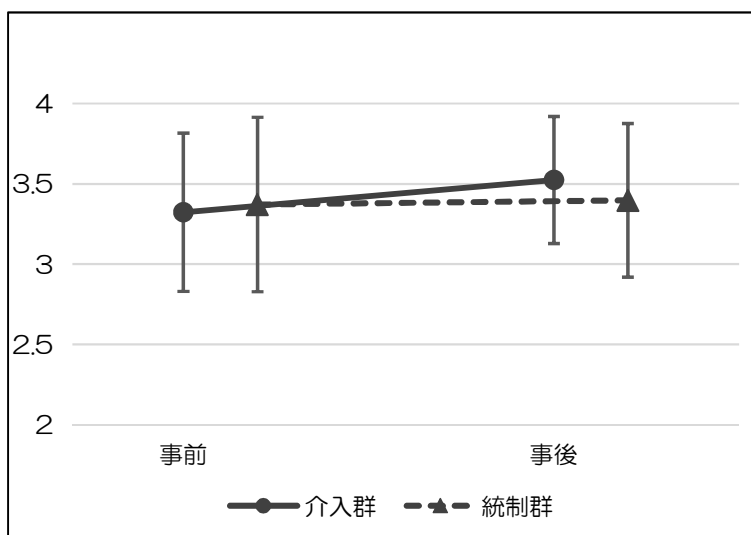


Figure 12 : 学校生活享受感測定尺度の評定平均値，標準偏差

### 4.3.2 学校への心理的適応の欲求充足因子における評定平均値の変化と効果量

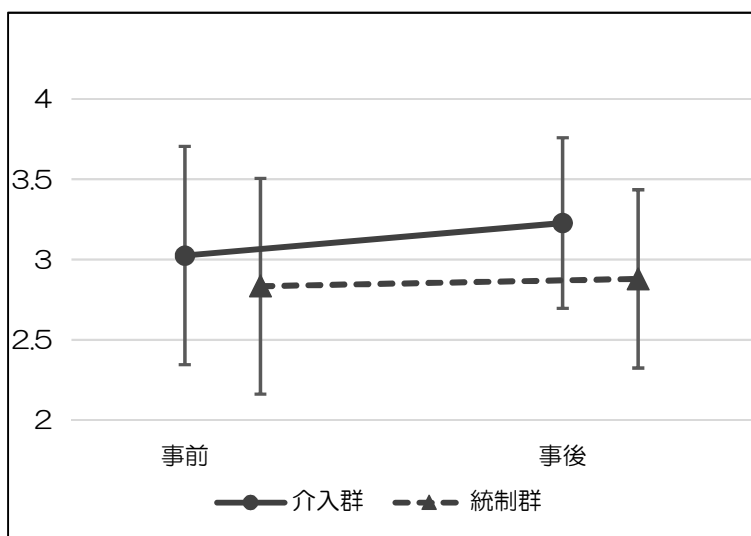
Table 11, Figure 13 は, 学校への心理的適応の欲求充足因子についての調査結果である。

Figure 13 は, 事前・事後調査の評定平均値をグラフ化したものである。介入群は事前と比較して事後の評定平均値が 0.21 上昇した。統制群は事前と比較して事後の評定平均値が 0.05 上昇した。

また, Table 11 で示したように, 事前・事後の平均値差の効果量  $d$  を求めた。介入群では事前と比較して事後の平均値が 0.33 標準偏差分高かった。統制群では事前と比較して事後の平均値が 0.07 標準偏差分高かった。

**Table 11 : 学校への心理的適応の欲求充足因子の評定平均値, 標準偏差, 効果量**

	介入群 $n=75$			統制群 $n=73$		
	事前	事後	効果量 $d$	事前	事後	効果量 $d$
評定平均値	3.02	3.23	0.33	2.83	2.88	0.07
標準偏差	0.68	0.53		0.67	0.56	



**Figure 13 : 学校への心理的適応の欲求充足因子の評定平均値, 標準偏差**

### 4.3.3 学校への心理的適応の要請対処因子における評定平均値の変化と効果量

Table 12, Figure 14 は, 学校への心理的適応の要請対処因子についての調査結果である。

Figure 14 は, 事前・事後調査の評定平均値をグラフ化したものである。介入群は事前と比較して事後の評定平均値が 0.22 上昇した。統制群は事前と比較して事後の評定平均値が 0.05 下降した。

また, Table 12 で示したように, 事前・事後の平均値差の効果量  $d$  を求めた。介入群では事前と比較して事後の平均値が 0.37 標準偏差分高かった。統制群では事前と比較して事後の平均値が 0.09 標準偏差分低かった。

Table 12 : 学校への心理的適応の要請対処因子の評定平均値, 標準偏差, 効果量

	介入群 $n=75$			統制群 $n=73$		
	事前	事後	効果量 $d$	事前	事後	効果量 $d$
評定平均値	2.86	3.08	0.37	2.87	2.82	0.09
標準偏差	0.64	0.51		0.56	0.50	

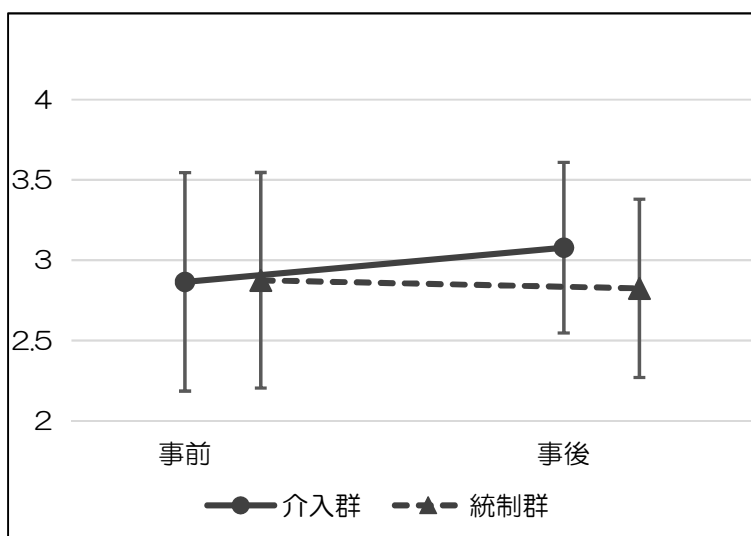


Figure 14 : 学校への心理的適応の要請対処因子の評定平均値, 標準偏差

#### 4.3.4 生徒会活動についての振り返り調査の回答割合分布

Figure 15 は、生徒会活動についての振り返り調査の「私は生徒会活動（専門委員会活動）や学級活動（係活動）に積極的に参加している」の項目について、介入群と統制群の割合分布を比較したものである。肯定的回答をした生徒の割合は、介入群が 90.5%，統制群が 82.4% となり、介入群の方が 8.1 ポイント高かった。

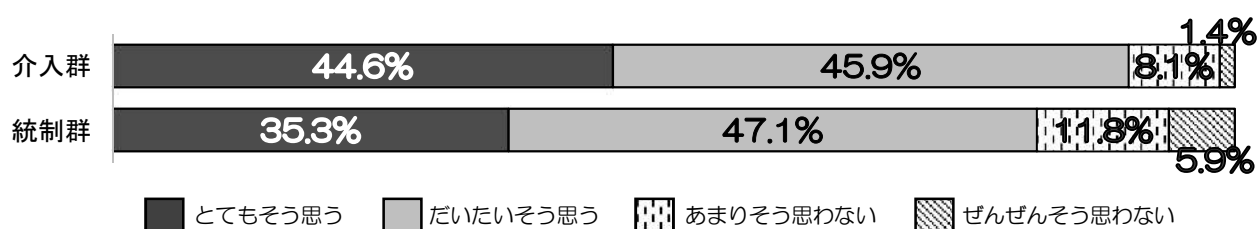


Figure 15 : 「私は生徒会活動（専門委員会活動）や学級活動（係活動）に積極的に参加している」の割合分布

Figure 16 は、生徒会活動についての振り返り調査の「もっと生徒会活動（専門委員会活動）をする時間が欲しい」の項目について、介入群と統制群の割合分布を比較したものである。活動時間を必要とする生徒の割合は、介入群が 46.0%，統制群が 54.4% となり、介入群の方が 8.4 ポイント低かった。

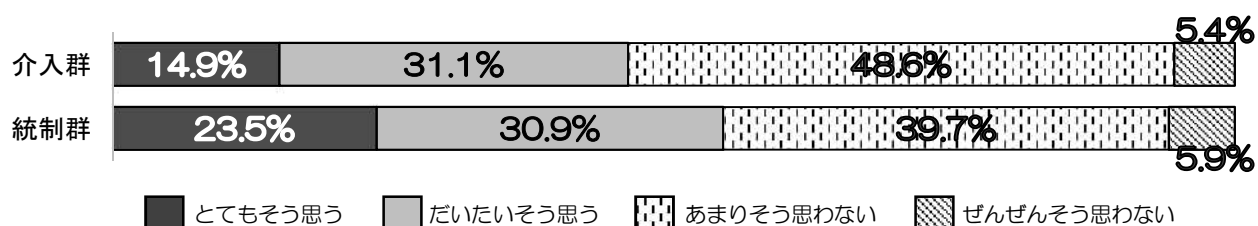


Figure 16 : 「もっと生徒会活動（専門委員会活動）をする時間が欲しい」の割合分布

Figure 17 は、生徒会活動についての振り返り調査の「生徒会活動（専門委員会活動）は、意見を出しやすい環境になっている」の項目について、介入群と統制群の割合分布を比較したものである。肯定的回答をした生徒の割合は、介入群が 85.2%，統制群が 80.9% となり、介入群の方が 4.3 ポイント高かった。

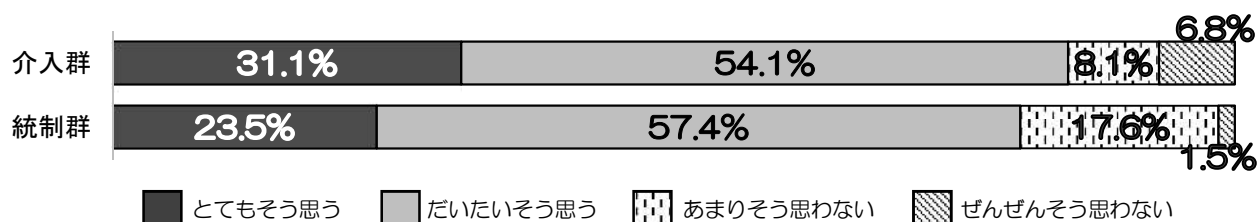


Figure 17 : 「生徒会活動（専門委員会活動）は、意見を出しやすい環境になっている」の割合分布

Figure 18 は、生徒会活動についての振り返り調査の「生徒会活動（専門委員会活動）で、自分の意見が採用されたことがある」の項目について、介入群と統制群の割合分布を比較したものである。肯定的回答をした生徒の割合は、介入群が 72.9%，統制群が 50.0% となり、介入群の方が 22.9 ポイント高かった。

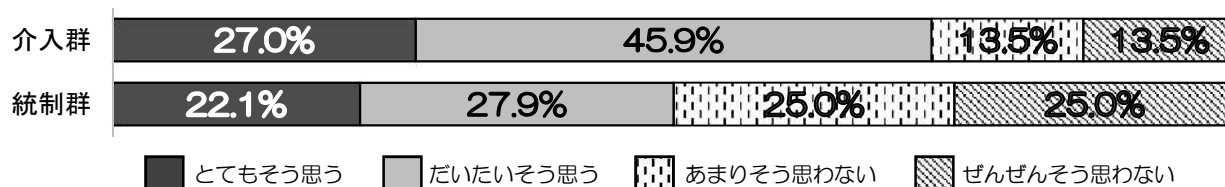


Figure 18 : 「生徒会活動（専門委員会活動）で、自分の意見が採用されたことがある」の割合分布

Figure 19 は、生徒会活動についての振り返り調査の「生徒会活動（専門委員会活動）は、学校をより良くすることにつながっていると思う」の項目について、介入群と統制群の割合分布を比較したものである。肯定的回答をした生徒の割合は、介入群が 90.5%，統制群が 92.7% となり、介入群の方が 2.2 ポイント低かった。

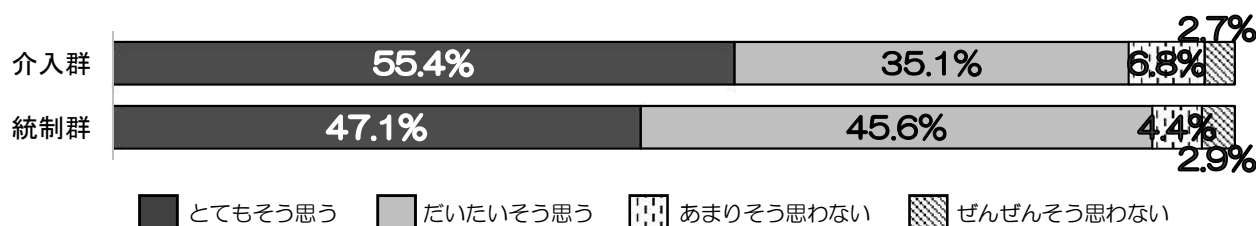


Figure 19 : 「生徒会活動（専門委員会活動）は、学校をより良くすることにつながっていると思う」の割合分布

Figure 20 は、生徒会活動についての振り返り調査の「【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、生徒会（専門委員会）がどんな活動をしているのかよくわかる」の項目について、介入群と統制群の割合分布を比較したものである。肯定的回答をした生徒の割合は、介入群が 86.5%，統制群が 70.0% となり、介入群の方が 16.5 ポイント高かった。

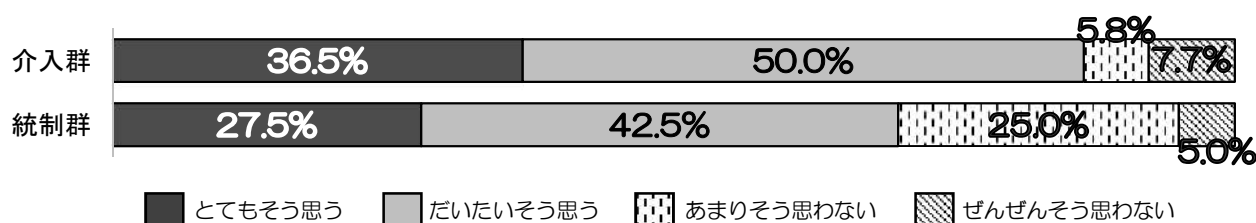


Figure 20 : 「【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、生徒会（専門委員会）がどんな活動をしているのかよくわかる」の割合分布



Figure 21 は、生徒会活動についての振り返り調査の「【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、新しい活動が増えたと思う」の項目について、介入群と統制群の割合分布を比較したものである。肯定的回答をした生徒の割合は、介入群が 78.8%，統制群が 72.5% となり、介入群の方が 6.3 ポイント高かった。

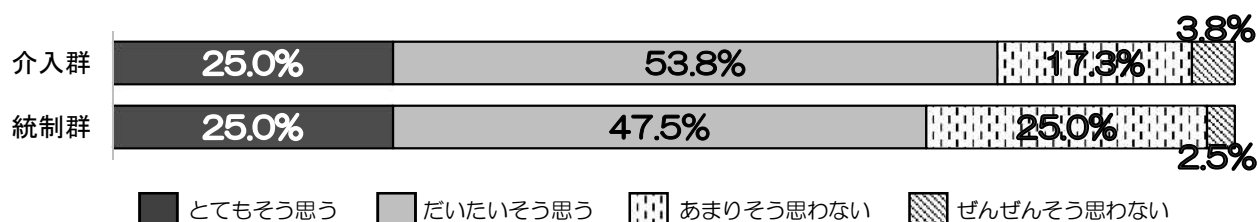


Figure 21：「【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、新しい活動が増えたと思う」の割合分布

## 5 考察

### 5.1 本研究の成果

本研究の目的は、生徒会活動にクラウドを導入することが活動の活性化につながるかを検討するものである。また、「活性化」を「生徒の学校への帰属意識や他者との関係性といった学校適応感が向上すること」と定義した。クラウドを導入すると、生徒たちの情報共有がスムーズになり、協働作業が促進される。また、活動に、より多くの生徒の意見が反映されたり関わったりすることにより、創造性が生まれる。それらのことが学校適応感の向上につながると考えた (Figure 2 参照)。

盛満 (2013) は、生徒は生徒会の必要性を感じながらも、その活動に対する関心は低く、その大きな理由として、活動内容がわからないことを指摘している。本研究における介入群では、Google Classroom を活用することで、情報共有がスムーズになるだけでなく、活動内容やその結果がファイルデータとしてはっきりと見える形になった。これは、Figure 20 で示した、生徒会活動についての振り返り調査の「【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、生徒会 (専門委員会) がどんな活動をしているのかよくわかる」の項目について、介入群の肯定的回答 86.5% が統制群の 70.0% より 16.5 ポイント高い数値を示したことから読み取れる。また、「生徒会活動について思っていることや感じていること」についての自由記述でも、「課題やそれに向けてどのような取り組みを行っているかがわかったり、どのような目的で取り組みをやっているかを知ることができたりしていいと思います。」「2、3年生の取り組みも知ることができてよかったです。」という回答があったことから伺える。情報共有がスムーズになったことや、活動内容が透明化されたことにより、生徒たちの生徒会活動に対する関心が高まったのではないだろうか。

また、Google Classroom を活用することで、クラウド上での協働作業が促進された。介入群の生徒たちに、クラウド上で協働作業をすることに対して聴き取りを行ったところ、「コンピュータ上で一緒に作業することは楽しい」や「離れた場所でも同時に同じものを編集できて便利」など、肯定的な声が多かった。さらに、時間・労力の観点で効率化されたこともわかった。これは、Figure 16 で示した、生徒会活動についての振り返り調査の「もっと生徒会活動 (専門委員会活動) をする時間が欲しい」の

項目について、活動時間を必要とする生徒の割合が介入群は統制群に比べて 8.4 ポイント低い数値を示していることから読み取れる。ここから、介入群の活動が効率化され、活動時間が不足していると感じる生徒が少ないことが伺える。Table 8, Table 9 で示した介入群と統制群の主な生徒会活動を比較すると、両群とも同様の活動内容であることから、クラウドを活用した介入群の方が効率的に行えたことがわかる。活動時間に制限のある中学校の生徒会活動において、いかに効率的に活動できるかは重要である。

中野（2014）は生徒会について、生徒の主体的な活動には「自己肯定感」や「自己有用感」の創出が不可欠であると述べている。介入群では、Google Classroom が、より多くの生徒にとって主体的に意見を発信できる場となり、これまで以上に活発な意見の交流がみられた。これは、Figure 17 で示した、生徒会活動についての振り返り調査の「生徒会活動（専門委員会活動）は、意見を出しやすい環境になっている」の項目について、介入群の肯定的回答 85.2%が統制群の 80.9%より 4.3 ポイント高い数値を示していることや、Figure 18 で示した、生徒会活動についての振り返り調査の「生徒会活動（専門委員会活動）で、自分の意見が採用されたことがある」の項目について、介入群の肯定的回答 72.9%が統制群の 50.0%より 20 ポイント以上高い数値を示していることからわかる。また、「生徒会活動について思っていることや感じていること」についての自由記述でも、「生徒会活動（専門委員会）では、自分の意見がちゃんとと言える環境になっていて、とてもいいと思いました。」「前よりも意見が出やすい専門委員会になっていったと思います。」という回答があったことから伺える。自分の意見が採用されたり、活発な意見の交流ができたりすることで、「自己肯定感」や「自己有用感」が向上されたと推察される。

さらに、Figure 15 で示した、生徒会活動についての振り返り調査の「私は生徒会活動（専門委員会活動）や学級活動（係活動）に積極的に参加している」の項目について、肯定的回答が介入群は 90.5%と 9 割を超えており、統制群の 82.4%と比べても 8.1 ポイント高い数値を示していることや、Figure 21 で示した、生徒会活動についての振り返り調査の「【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、新しい活動が増えたと思う」の項目について、介入群の肯定的回答 78.8%が統制群の 72.5%より 6.3 ポイント高い数値を示していることにも着目したい。介入群ではクラウドを活用することで、これまでより多くの生徒の活躍する場が与えられたと考えられる。それにより生徒の積極性と主体性が向上し、体育祭スローガン作成のためのアンケートや、学年縦割りチームにおける Google Classroom の活用などの新しい活動が生み出されたのではないだろうか。

これらを踏まえて、事前・事後調査の「学校生活享受感測定尺度」と「学校への心理的適応（欲求充足因子・要請対処因子）」の結果を見てみると、Table 10, Figure 12, Table 11, Figure 13 で示したように、両群ともに「学校生活享受感測定尺度」と「学校への心理的適応（欲求充足因子）」の評定平均値は上昇した。しかし、効果量を比較すると、統制群はどちらも 0.1 以下であったが、介入群はどちらも 0.3 以上であった。このことから、介入群に明らかな効果があったことがわかる。また、Table 12, Figure 14 で示したように、「学校への心理的適応（要請対処因子）」の評定平均値については、介入群は上昇したが、統制群は下降した。ここでも介入群の効果量は 0.3 以上であることから、介入群に明らかな効果があったことがわかる。

以上のことから、介入群において学校適応感が向上したといえる。生徒会活動についての振り返り調査の結果を見ても、介入群にはクラウドを導入したことによる成果が表れており、それらが学校適応感の向上の一助となったと考えられる。つまり、クラウドを導入したことで、生徒会活動は活性化したといえる。

## 5.2 本研究の意義と今後の展望

Figure 19 で示した、生徒会活動についての振り返り調査の「生徒会活動（専門委員会活動）は、学校をより良くすることにつながっていると思う」の項目について、肯定的回答が介入群は 90.5%、統制群は 92.7%となっており、ともに高い数値を示していることから、多くの生徒は学校生活において生徒会活動の重要性を認識しているといえる。その生徒会活動が、クラウドを導入することで活性化することが明らかになった。

GIGA スクール構想<sup>3</sup>が進み、学校教育での ICT 活用は更なる発展を遂げつつある。本研究で、生徒会活動へのクラウド導入の有効性は示されたが、クラウドのもつ可能性は生徒会活動だけに留まらない。実際に介入群では、生徒会活動を中心として、クラウド活用が日々の教育活動にも根付き始めている。例えば英語科では、Google ドライブでファイルデータを共有し、協働でプレゼン資料を作成したり、相互評価をしたりする活動が行われた。理科では、協働で実験結果を Google スライドにまとめる活動が行われた。音楽部ではストリームで連絡事項を周知するだけでなく、練習曲やダンス動画を共有したり、アドバイスを送ったりと、活動の幅を広げていた。また、新型コロナウイルス感染症による休校期間では、Google Classroom が学校と家庭をつなぐツールとして有効に活用された。

今後、クラウド活用は、校内のみの活動に限らず、他校や地域との交流等にも広まりをみせると予想される。実際、介入群でも Web 会議システム (Zoom) で他校との遠隔交流が行われた。Zoom を活用することで、交流のために学校間を移動する必要がなく、距離的・時間的な負担が軽減された。交流の中で、介入群が行っている「ペットボトルキャップ集め」と、交流校が行っている「ベルマーク集め」を互いに協力して行うことになった。両校でペットボトルキャップとベルマークを集め、ペットボトルキャップは介入群に、ベルマークは交流校に集約することで、それぞれの回収数を増やすことができた。このように他校との交流活動は、生徒会活動状況や行事の企画・運営の情報交換をすることによって、それぞれの生徒会活動の質を向上させたり、子どもたちの視野を広げたりすることができる。

今後の学校教育において、クラウド活用は必要不可欠になる。その上で重要なことは、日常的にクラウドが活用されることであろう。そのためには、教員・生徒ともに ICT に関する知識・技術に加え、情報活用能力の向上が求められる。

---

<sup>3</sup> GIGA スクール構想とは、「Global and Innovation Gateway for All」の略で Society5.0 時代に生きる子どもたちの未来を見据え、義務教育課程 1 人 1 台分の端末 (PC やタブレット) 及び市立学校の高速度大容量の通信ネットワーク (校内無線 LAN) を一体的に整備することで、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現していこうとする取り組みのことである。

### 5.3 本研究の課題

本研究では、生徒会活動にクラウドを導入することが活動の活性化につながるかを検討した。しかし、Google Workspace for Education は教員にも生徒にもまだ不慣れなソフトウェア群であり、その機能などを把握しきれず、特性を活かしきれなかった。これは、本研究の介入期間が短かったため、機能理解や操作スキルを習得する時間が不足してしまったことによるものである。さらに、介入開始当時は1人1台の学習者端末が整備されたばかりであり、コンピュータの操作すらままならない生徒が多かったこともある。今後、教員・生徒のクラウド活用スキルが高まったとき、クラウドの特性をさらに活かした新たな活動が展開されると推察される。

また、本研究で介入群の学校適応感が向上したことは示された。しかし、学校生活の中で学校適応感が向上しうる要因は様々あり、生徒会活動にクラウドを導入したことのみで起因するかは断言できない。更なる検証が必要であると思われる。

最後に、本研究においてクラウドの具体的な活用方法や運用については生徒たちの自主性に委ねたが、事前に生徒指導上の観点を考慮しておく必要がある。例えば、クラウドを使用するための個人アカウントの管理である。アカウントのIDやパスワードの管理が不適切であると、なりすましログインなどのトラブルが発生する恐れがある。また、メッセージや画像の投稿機能を悪用したいじめ問題なども懸念される。実際に全国ではそういった事案が発生している。これらのようなトラブルを想定し、事前に対応を考えておくことが重要である。しかし、対応としてあまりに規制や管理を強くしてしまうと、クラウド活用の可能性を狭めてしまいかねない。文部科学省（2021）は「制限は安易に行うものではなく、真に必要な場合にのみ行うべきであって、むしろ、多くの課題については、1人1台端末を積極的に利活用する中で解決を図ることこそが重要と考えられる」と述べている。トラブルを未然に防ぐことも大切だが、クラウドを活用することによるトラブルの発生を考慮しつつ、活用を促進することに重点を置くことがより重要であると考えられる。

## 引用文献

- 明石 要一・小川 幸男 (1997). 生徒会活動を通じた学校活性化の方法—中学校における生徒会活動の活性化を目指して— 千葉大学教育学部研究紀要 教育科学, 45, 39-59.
- 植村 徹・高橋 宏和・秋元 佐恵 (2015). オンラインストレージを利用した生徒の共同作業—中学総合学習 B「東京地域研究」の報告書作成を通して— 筑波大学附属駒場論集, 54, 129-145.
- 植村 徹・高橋 宏和・秋元 佐恵 (2016). オンラインストレージを利用した生徒の共同作業 (第 2 報)—中学総合学習 C「東北地域研究」を通して— 筑波大学附属駒場論集, 55, 121-137.
- 岡田 有司 (2012). 中学校への適応に対する生徒関係的側面・教育指導的側面からのアプローチ 教育心理学研究, 60, 153-166.
- 小澤 洋祐・上岡 学 (2019). 生徒会活動の実践と育つ力 武蔵野教育学論集, 7, 19-29
- 奥村 龍也・高松 勝也 (2014). 中学生の規範意識向上をめざした映像教材の効果の検証—映像教材作成に生徒会活動を関連させた取組を通して— 日本教育心理学会総会発表論文集, 56, 573.
- 金指 紀彦 (2017). 授業における Chromebook の活用 東京学芸大学附属高等学校研究紀要, 54, 93-100
- 中野 祐輔 (2014). 子どもたち自身が, 企画運営する生徒会運営を目指して—「自己肯定感」, 「自己有用感」の創出を通して, 主体性を発揮する生徒の育成— 教育実践研究, 24, 205-210
- 古市 裕一・玉木 弘之 (1994). 学校生活の楽しさとその規定要因 岡山大学教育学部研究集録, 96, 105-113.
- 盛満 弥生 (2013). 生徒会活動の現状と課題—生徒総会を中心として— 宮崎大学教育文化学部紀要 教育科学, 29, 105-111.
- 文部科学省 (2017). 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)
- 文部科学省 (2017). 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説特別活動編, 東山書房
- 文部科学省 (2021). GIGA スクール構想の下で整備された 1 人 1 台端末の積極的な利活用等について (通知)

【資料 1】 Google フォームで作成した学校生活に関するアンケート（事前調査）

【          中学校】学校生活に関するアンケート

\*必須

学年・クラス\*

選択

出席番号\*

選択

名前\*

回答を入力

\*

	よくあてはまる	だいたいあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	ぜんぜんあてはまらない
1. わたしは学校に行くのが好きだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 学校は楽しくて、1日があっという間に過ぎてしまう	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 少しぐらい体の調子が悪くても学校へ行きたい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 学校では楽しいことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 学校が嫌で、授業が終わったらすぐに家に帰りたい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 学校がなければ毎日つまらないと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 日曜の夜、明日から学校かと思うと気分が重くなる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. いつまでもこの学校にいられたらよいのにと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. 学校では嫌なことばかりある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. わたしはこの学校が好きだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

\*

	とてもそう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
11. 学校では自分の気持ちを素直に出せていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. 学校ではあまり気を使わずに過ごせていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. 学校では自分の言いたいことを言えていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. 学校では自分のやりたいことができると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15. 学校の中ではリラックスできていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16. 学校では自分の望んだ関係をつくれていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17. 学校生活の中で求められている事はできていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18. 学校の中で周囲から認められるような事ができていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19. 学校の中ではまわりの期待にこたえられていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20. 学校で言われたことはちゃんとできていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
21. 学校ではまわりに気をくばることができていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
22. 学校では自分をまわりにあわせる事ができていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

生徒会活動（専門委員会も含む）について思っていることや感じていることを自由にかいてください\*

回答を入力

送信

【資料2-①】 Google フォームで作成した学校生活に関するアンケート①（事後調査）

【          中学校】学校生活に関するアンケート

\*必須

学年・クラス\*

選択

出席番号\*

選択

名前\*

回答を入力

\*
 

	よくあてはまる	だいたいあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	ぜんぜんあてはまらない
1. わたしは学校に行くのが好きだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 学校は楽しくて、1日があっという間に過ぎてしまう	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 少しくらい体の調子が悪くても学校へ行きたい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 学校では楽しいことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 学校が嫌で、授業が終わったらすぐに家に帰りたい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 学校がなければ毎日つまらないと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 日曜の夜、明日から学校かと思うと気分が重くなる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. いつまでもこの学校にいられたらよいのと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. 学校では嫌なことばかりある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. わたしはこの学校が好きだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

\*
 

	とてもそう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
11. 学校では自分の気持ちを素直に出せていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. 学校ではあまり気を使わずに過ごせていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. 学校では自分の言いたいことを言えていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. 学校では自分のやりたいことができていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15. 学校の中ではリラックスできていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16. 学校では自分の望んだ関係をつくれていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17. 学校生活の中で求められている事はできていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18. 学校の中で周章から認められるような事ができていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19. 学校の中ではまわりの期待にこたえられていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20. 学校で言われたことはちゃんとできていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
21. 学校ではまわりに気をくばることができていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
22. 学校では自分をまわりにあわせる事ができていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【資料 2-②】 Google フォームで作成した学校生活に関するアンケート②（事後調査）

	とてもそう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
23. 私は生徒会活動（専門委員会活動）や学級活動（係活動）に積極的に参加している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
24. もっと生徒会活動（専門委員会活動）をする時間が欲しい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
25. 生徒会活動（専門委員会活動）は、意見を出しやすい環境になっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
26. 生徒会活動（専門委員会活動）で、自分の意見が採用されたことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
27. 生徒会活動（専門委員会活動）は、学校をより良くすることにつながっていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
28. 【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、生徒会（専門委員会）がどんな活動をしているのがよくわかる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
29. 【2・3年生のみ回答】昨年と比べて、新しい活動が増えたと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

生徒会活動（専門委員会も含む）について思っていることや感じていることを自由にかいてください\*

回答を入力

送信 フォームをクリア



## 生徒会活動が活性化するクラウド活用に関する研究

— Google Workspace for Education を通して —

〔研究協力員〕	四日市市立橋北中学校	教 諭	湯浅 達矢
	四日市市立橋北中学校	教 諭	服部 善之
	四日市市立塩浜中学校	教 諭	小崎祐一郎
〔執筆 者〕	四日市市教育委員会	研 修 員	東出 剛佳
〔指導・助言〕	国立教育政策研究所	総括研究官	山森 光陽

---

研究調査報告 第 413 集

## 生徒会活動が活性化するクラウド活用に関する研究

— Google Workspace for Education を通して —

発 行 令和 4 年 3 月 7 日  
発行所 四日市市教育委員会教育支援課  
四日市市諏訪町 2 番 2 号  
電話 (059) 354-8149  
FAX (059) 359-0280

---